

平成 26 年 3 月 14 日

STAP 細胞研究論文にかかる調査中間報告
を受けての理事長コメント

今般、理研の研究者が著者として発表した Nature 誌論文が科学社会の信頼性を揺るがしかねない事態を引き起こしたことに對し、お詫びを申し上げます。

科学者は論文記載の観察結果及びそこから導かれる科学的結論について全面的に責任を負わねばなりません。特に主張の根拠となる自らの実験結果については、客観的かつ十分慎重に取り扱う必要があります。

STAP 現象の再現性と信頼性は、理研の研究者がその厳密な検証を行っていくとともに、第三者による追試によって証明されていくものです。外部機関の研究者による再現実験に積極的に協力し、必要な情報を提供するように指示したところです。

一方、Nature 誌に発表した多岐にわたる共同研究論文の作成の過程において、重大な過誤があったことは、甚だ遺憾です。論文の取下げを勧めることも視野にに入れて検討しています。

引き続き調査委員会において細心の注意を払い論文内容の調査を進めるとともに、その結果を踏まえ、研究不正と認められた場合には、研究所の規定に基づき厳正に処分を行います。

今後、科学者倫理と諸規定を真摯に遵守しつつ、社会の期待に応えるべく研究を行うよう、全所的に教育、指導を徹底します。

なお、科学研究には批判精神が不可欠であり、科学的、技術的質疑に真摯に対応する所存です。